2005年 後期

東北大学会計大学院アンケート実施報告書

Tohoku University Accounting School

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

1. はじめに

東北大学会計大学院は 2005 年 4 月に国立大学法人としてはじめての会計専門職大学院として開設された . 本大学院の目的は，グローバルな視野と高度な分析能力を持つ職業会計人を養成し，将来にわたりこのような人材を社会に提供し続けていくことである . この目的を達成していくために第一義的に重要なことは，会計大学院における教育であり，私たちは，社会が職業会計人に求める能力を把握し，これを学生への教育へと反映し，同時に，現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを常に確認しながら，より効果的な教育方法を模索していく必要があると考えている .

会計大学院における教育方法については手探りの部分が多く，未だ確固たる教育方法が確立しているわけではない . 私たちは，会計大学院における最善の教育方法・システムを求めていくための 1 つの手段として，毎セメスター終了後にカリキュラムと当該セメスターに開講された科目に関するアンケートを実施することとした .

このアンケート調査報告書は，在学生が私たち教員に対して発信したメッセージに対する回答である . この調査報告書を通じて，学生諸君が発したメッセージに私たちがどのような形で応えようとしているのか，私たちが今後会計大学院の教育をどのような方向へ進めていきたいと考えているのか，を学生諸君に理解して頂きたいと考えている .

この調査報告書は，会計大学院のホームページを通じて社会に対しても公開する . その意図は，東北大学会計大学院への入学希望者や将来私たちが教育した学生を受け入れていただく監査法人・会計事務所・企業・官庁の方々に本会計大学院でどのような教育が行われているかを理解していただきたいという点にある . 私たち教員は，この調査報告書の公開により，東北大学会計大学院へ関心が高まり，本大学院出身の学生が高度な分析能力を持つ職業会計人として活躍できる機会が増えることを期待している .

今回のアンケート調査報告書は，2005 年度後期終了後に実施されたアンケートを集計したものであり，会計大学院にとって 2 回目のアンケート報告書になる . 私たちは前回のアンケート結果との比較を行いながら，今後私たちが改善すべき点を見いだし，学生に質の高い教育サービスを提供していきたいと考えている .

2006 年 4 月 3 日
東北大学会計大学院ワークショップ委員会

2. 実施方法

本報告書の対象となるアンケートは，会計大学院の講義において平成 18 年 1 月 16 日より受講者に配布された以下の 2 種類のアンケートである .

①「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」（巻末「付録 1」参照）

②「会計大学院の授業に関するアンケート」（巻末「付録 2」参照）

これらのアンケートは講義中に配布され，平成 18 年 1 月 30 日から 2 月 3 日の間に経済学研究科事務室前に回収箱を設置して回収した（一部の講義では講義中に回収を行っている）.

両アンケートともに無記名であり，①は 1 学生につき 1 回限りの回答とした . ②は，受講生が 5 人以上であるすべての講義について実施し（講義担当教員の希望により受講生が 5 名未満の講義についてもアンケートを実施している講義も一部存在する), 学生は受講している講義毎に回答を行っている .

本報告では，最初に①のアンケート結果を集計し，本会計大学院の教育システム全般に関する分析を行い，問題点を明らかにし，今後の対応について述べる . 次に，②のアンケート結果を集計し，今セメスターに開講された科目について，その教育内容・教育方法全般に関する分析を行い，その問題点を明らかにし，今後の対応を明らかにする .

本報告では，アンケートにより得られたデータを可能な限り数量的・客観的に分析したいと考えている . そこで，①のアンケートにおける自由記述欄の内容については，具体的な内容を記述せず，次年度以降にカリキュラム編成を行う際の参考とし，重要と考えられる意見に対してのみ若干のコメントを行いたい . また，②における科目毎のアンケートの集計結果（アンケート質問項目 17 の自由質問を含む）と自由記入欄の記載内容は，担当教員に直接報告し，次年度以降の講義の参考として頂きたいと考えている .

3.「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」に関する分析

3.1. アンケートの実施状況

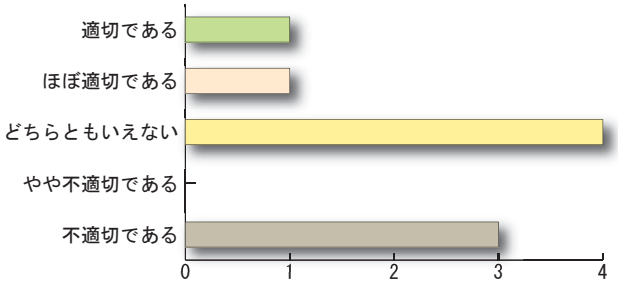
このアンケートは，2005 年度後期に開講された (19 科目) の講義で配布された . 前期と同様に回答者の数はやや少なく，会計大学院の学生 9 名から回答を得た . サンプル数が少なく十分な分析はできないが，以下では，それぞれのアンケート項目ごとに集計結果を分析し，今後の対応を示すことにする .

3.2. 集計結果・分析・今後の対応

質問項目 2：基礎，展開，実践・応用の科目配置は適切だと思いますか .

集計結果

選択項目	回答数	比率	前回比率
適切である	1	11.11%	6.67%
ほぼ適切である	1	11.11%	40.00%
どちらともいえない	4	44.44%	20.00%
やや不適切である	0	0.00%	13.33%
不適切である	3	33.33%	20.00%
合計	9	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問は前回のアンケートでも行った . 前回の結果と比較すると，「不適切である」が増加し，「ほぼ適切である」も減少していることが分かる . サンプル数が少ないので，確実なことは言えないが，学生が基礎，展開，実践・応用の科目配置について多少不満を持っているという傾向を見ることができる .

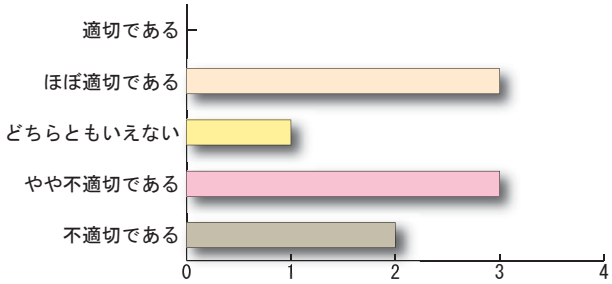
今後の対応

今セメスターに開講された科目は，外書購読を除けば，「基礎科目」と「実践・応用科目」であり，前回と同様に，今回のアンケート結果だけで 3 種類の科目配置を評価するのは難しい . この質問の意図は，開講された科目自体の内容ではなく，開講された科目が，基礎科目として適切か，実践・応用科目として適切かどうか, を問うものである . アンケートを行う際, この点を十分に説明する必要があると思われるが，今回のアンケートではこの点を十分に周知することができなかった . 次回のアンケートでは，科目が「基礎科目」・「展開科目」・「実践・応用科目」に分類されている意図を周知した上で調査を行い，今回得られた科目配置に関する不満の意味を考えていきたい .

質問項目 3：セメスター間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか .

集計結果

選択項目	回答数	比率	前回比率
適切である	0	0.00%	6.67%
ほぼ適切である	3	33.33%	13.33%
どちらともいえない	1	11.11%	13.33%
やや不適切である	3	33.33%	26.67%
不適切である	2	22.22%	40.00%
合計	9	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問は前回のアンケートでも行った . 前回の結果と比較すると，「やや不適切である」が多少増加したものの，「ほぼ適切である」が増加し，「不適切である」が減少している . この点を考慮すれば，サンプル数は少ないものの，セメスター間の開設授業科目のバランスに関する不満は，前期より少なくなっているものと推測できる .

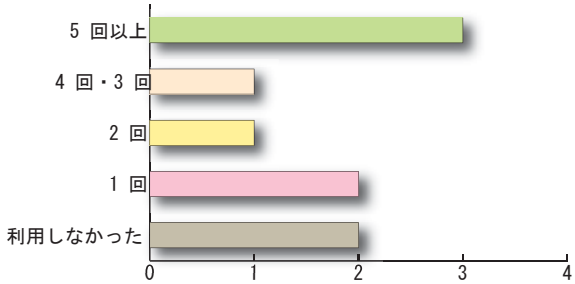
今後の対応

カリキュラム委員会では，前回と今回のアンケート結果を考慮し，数科目について前期開講科目と後期開講科目の入れ替えを行った . たとえば，簿記 1・2 は前期に開講されていたが，次年度では，簿記 1 を前期開講，簿記 2 を後期開講としている . このような変更が，学生がセメスター間の開設授業科目のバランスに対して持つ不満を多少なりとも解消することを期待している . 今回行った変更については，次回のアンケート結果を待ち，自己評価を行いたい .

質問項目 4：オフィスアワーを利用しましたか . 教員に履修相談・質問等を行った回数を書いてください .

集計結果

選択項目	回答数	比率	前回比率
5 回以上	3	33.33%	13.33%
4 回・3 回	1	11.11%	6.67%
2 回	1	11.11%	33.33%
1 回	2	22.22%	26.67%
利用しなかった	2	22.22%	20.00%
合計	9	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問は前回のアンケートでも行った . 前回の結果と比較すると，「5 回以上」利用した学生の割合・人数は増加している . ただし，「利用しなかった」学生の割合は，前回と同様であり，これらの結果を総合的に見れば，オフィスアワーの利用は増加しているものの，利用する学生と利用しない学生の二極分化が生じている可能性を否定できない .

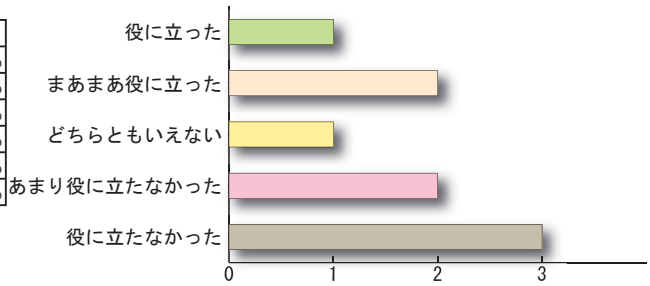
今後の対応

前回のコメントと同様に，オフィスアワー利用回数の少ないことが，学生自身にとりわけ大きな問題がないからなのか，オフィスアワー自体が必要とされていないのか，学生を受け入れる教員の側に問題があるのか，その明確な理由を得ることはできなかった . この点については，セメスターの初めに行われる履修相談等を通じて，オフィスアワーに関する学生の意見を聴取し，オフィスアワーの利用について考えていきたい .

質問項目 5：セメスター開始時に行われる履修指導は，学習計画を立てる上で役に立ちましたか .

集計結果

選択項目	回答数	比率	前回比率
役に立った	1	11.11%	0.00%
まあまあ役に立った	2	22.22%	13.33%
どちらともいえない	1	11.11%	20.00%
あまり役に立たなかった	2	22.22%	40.00%
役に立たなかった	3	33.33%	26.67%
合計	9	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問は前回のアンケートでも行った . 前回の結果と比較すると, 前回は「役に立った（0%）」と「まあまあ役に立った（13.33%）」であり, 今回は「役に立った（11.11%）」と「まあまあ役に立った（22.22%）」であり，サンプル数は少ないものの，履修指導が有用であったと考える学生が増えている傾向を見ることができる .

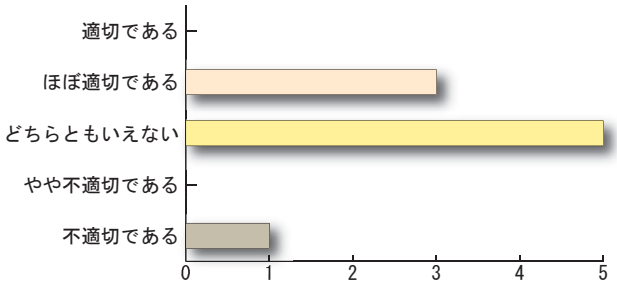
今後の対応

ほとんどの教員にとって本会計大学院で行われている形で履修指導を行うのは初めての経験であり，開学 1 年目は, 履修指導についてそのノウハウを蓄積することで精一杯であったことは認めざるを得ない . 次年度以降，今年の経験を生かし，学生の立場から見てどのような履修指導が望まれているのかを検討し，今後の履修指導を行っていきたい

質問項目 6：本大学院では GPA による成績評価を用いていますが，GPA によって学生の能力は適切に評価できると思いますか .

集計結果

選択項目	回答数	比率	前回比率
適切である	0	0.00%	0.00%
ほぼ適切である	3	33.33%	13.33%
どちらともいえない	5	55.56%	46.67%
やや不適切である	0	0.00%	0.00%
不適切である	1	11.11%	40.00%
合計	9	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問は前回のアンケートでも行った . 前回の結果と比較すると,「不適切である」の割合が激減し,「ほぼ適切である」の割合が増加していることが分かる . これらのことより，GPA については否定的な意見が減少し，おおむね受け入れられているという傾向を見ることができる .

今後の対応

前回のコメントでも述べたように，GPA が単なる成績表システムではなく，自己の成績の管理システムであるという点を学生に理解してもらうことが重要である . 今後とも，履修指導等を通じて，この点を学生に理解してもらうよう努力していきたい .

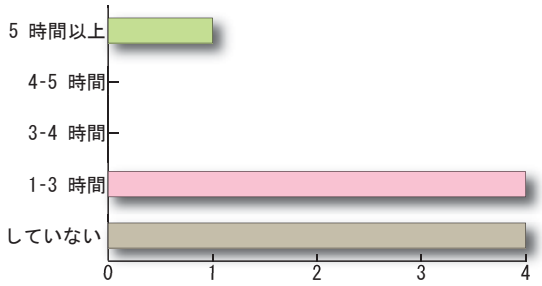
GPA が学生に受け入れられるためには，シラバスに成績評価基準が明記されており，かつ，この基準に基づき評価がなされることが必要である . また，学生が成績評価に対して疑問を持った場合，私たち教員はその疑問に答える義務がある . 会計大学院では，次年度の学生便覧に「成績に関する異議申し立ての手続」を記載し，これをオリエンテーションや履修指導を通じて周知していきたいと考えている .

前回報告におけるコメントと同様に，私たちは，学生の能力を適切に測定できるよう，シラバスに示されている成績評価基準を継続的に検討していくことも必要と考えている .

質問項目 7：講義の予習・復習・宿題にかける時間以外に，公認会計士試験のための自主学習には 1 日平均何時間くらいかけていますか .

集計結果

選択項目	回答数	比率	前回比率
5 時間以上	1	11.11%	33.33%
4-5 時間	0	0.00%	0.00%
3-4 時間	0	0.00%	26.67%
1-3 時間	4	44.44%	33.33%
していない	4	44.44%	6.67%
合計	9	100.00%	100.00%



分析と所見

前回の質問では，講義の予習復習以外に行う受験のための学習がどの程度であるか明確に把握できなかったので, 今回は質問を多少変更している . このため, 今回の結果と前回の結果を単純に比較できないが, 今回の結果を見る限り,「していない」学生の比率が前回に比べ 6 倍以上になっていることが分かる .

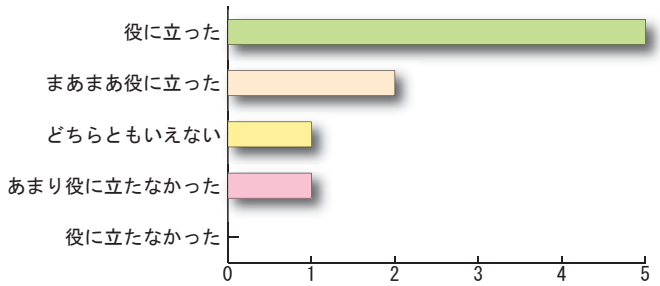
今後の対応

受験に関する学習を行わない学生の増えた理由については，現在のところ不明である . 今後，履修相談等を通じて，この点に関する情報を収集していきたい .

質問項目 8：会計大学院では，学生への連絡システムとして e-mail を用いていますが，この連絡システムは役に立ちましたか .

集計結果

選択項目	回答数	比率	前回比率
役に立った	5	55.56%	40.00%
まあまあ役に立った	2	22.22%	46.67%
どちらともいえない	1	11.11%	0.00%
あまり役に立たなかった	1	11.11%	13.33%
役に立たなかった	0	0.00%	0.00%
合計	9	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問は前回のアンケートでも行った . 前回報告の結果と同様に，多くの学生はこのシステムを評価しているものと考えられる .

今後の対応

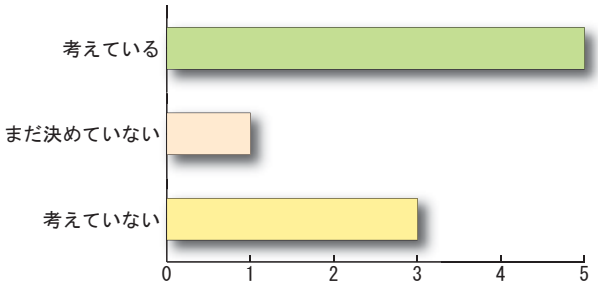
会計大学院では，昨年 11 月より，公認会計士法等に関する情報を HP へ掲示するようにしている . 今後とも，公認会計士試験などに関する情報を掲示するよう努めていきたい .

会計大学院では講義資料等も HP へ掲示しているが，現在のところ，開講されている全ての講義についてその資料が掲示されておらず，一部の学生からは，改善を望む声もだされている . 今後，会計大学院の HP からすべての資料へアクセスできるような方法を考えていきたい .

質問項目 9：在学中に公認会計士試験を受験しようと考えていますか .

集計結果

選択項目	回答数	比率	前回比率
考えている	5	55.56%	66.67%
まだ決めていない	1	11.11%	13.33%
考えていない	3	33.33%	20.00%
合計	9	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問は前回のアンケートでも行った . 前回の結果と比較すると，「考えている」という学生の割合が減少したものの，アンケートに回答を行った学生の半数以上が，次年度の受験を考えていることが分かる .

今後の対応

本大学院の教育は，過程を修了した時点での受験を前提にカリキュラムが組まれている . このため，現時点における対応は前回と変更はない . 前回の対応をそのまま引用すると次のようになる .

「在学生は平成 18 年度から始まる新試験を受験することになる . 本会計大学院の本来の目的は，高度な分析能力を持つ職業会計人を 2 年間という修業年限で養成することであり，在学中の受験はこの本来の目的とは整合しないところもある . 新試験制度における出題がどのような傾向になるのかについては，現時点においてまだ不確定な部分多い . しかし，6 割以上の学生が在学中の受験を希望している点を考慮すれば，新試験制度に関する情報収集に努め，これを学生に還元する形でサポートしていきたい .」

3.3. 自己評価と今後の課題

前回の報告で「自己評価と今後の課題」について 4 点述べている（巻末「付録 3」を参照）. 今回行った分析においても同様の課題を見いだすことができたので，これらの課題についてこれまでどのような方策をとってきたか，現在の進捗状況に触れながら述べていきたい .

前回報告における①：現状と今後の対応

科目のレベルに応じた分類が適切であるかどうかについては，前回と同様，明確な答えを得ることはできていない . また，1 年次には，外書購読を除き応用科目は開講されていないので，レベルに応じた分類が適切であるかどうかを，現時点で判断することは難しく，次年度以降のアンケート結果を待たなければならない .

前述したように, 次回は,「基礎, 応用, 実践・展開」という科目分類について十分な説明を行い, アンケートを実施したいと考えている .

前回報告における②：現状と今後の対応

質問項目 3 の結果より，前回に比べてセメスター間の開講科目間のバランスに関する不満は多少なくなっている . 一方，この点について学生が不満を持っていることも事実である .

カリキュラム委員会では，前回・今回のアンケート結果に基づき，次年度のカリキュラムで，一部科目について開講時期の変更を行っている . このような変更が学生からどのような評価を受けるかについては時間のアンケート結果を待ちたい .

前回報告における③と④：現状と今後の対応

③と④は相互に関連するので同時に述べることにする . 本会計大学院ではセメスター毎に履修相談を行っており，履修相談は，学生と教員がコミュニケーションを行うための重要な場であると考えられる . オフィスアワーもまた，学生とのコミュニケーションを行うための重要な手段と認識している . このため，今後とも履修指導とオフィスアワーを通じて学生とのコミュニケーションをとっていきたいと考えている .

前述したように，このような形での履修指導は，我々にとっても初めての経験であり，学生が希望するようなサービスを十分に供給できたかどうかは疑問が残るが，今年度については，1 人の学生に対して少なくとも 2 回以上の履修指導を行っている . 私たちは，履修指導を通じて得られた情報を共有するために，学生との面談内容を文書化し，これを全員に配布している . このような情報共有化が，今後行われる履修指導の中でどのような形となって表れるかを注意深く見守っていく必要がある .

今後，FD（Faculty Development）を通じて，共有化された情報に基づき，履修指導のあり方を検討していくことが必要と考える .

3.4. 自由記入欄の意見に対する若干のコメント

ここでは，自由記入欄に記述された意見のうち，本会計大学院のカリキュラム・教育全般にわたり重要と考えられるものについて若干のコメントを行う .

① 簿記の通年開講について

質問項目 3 で述べたとおり, 次年度から簿記 1 を前期, 簿記 2 を後期に開講したいと考えています .

② ＴＡについて

ＴＡについては今後ＦＤを行い，能力の向上に努めていきたいと考えています .

③ＨＰにおける資料掲示について

教員自身のＨＰに講義資料が掲示されている場合，会計大学院のＨＰから直接アクセスできるようリンクを張りたいと考えています .

4.「会計大学院の授業に関するアンケート」に関する分析

4.1. アンケートの実施状況

2005 年度後期における開講講義数は 19 科目であり，そのうち履修者が 5 名以上の講義（16 科目）と科目担当教員がアンケートを希望した講義（18 科目）についてアンケートが実施された .

授業科目名	履修者数	回収
財務諸表	35	7
財務諸表分析	36	7
コストマネジメント	10	4
原価計算 2	29	13
監査制度	32	28
監査計画の編成法 1	30	27
ミクロ経済学	9	1
マクロ経済学	7	3
ビジネス・プレゼンテーション 1	9	7
情報システム設計	7	5
情報システム管理	11	5
証券取引行政	24	15
会社法	20	16
事例研究（経営管理）	3	0
事例研究（統計学）	5	3
事例研究 1（計量経済分析）	1	1
事例研究（法人税法）	25	16
外書講読（財務会計）	7	7
合計	300	165

表 1：アンケート実施科目と回収数

今回のアンケートでは，延べ履修者数 300 名に対して 165 名から回答を得た . アンケートの回収率は 53% であり，回収率は決して高いとはいえなかった . なお，質問項目 17 は科目担当教員が独自におこなう質問であり，質問項目 18 はすでに取得した資格に関するものなので，アンケートの集計には含めていない .

4.2. アンケートに関する基本統計量

各設問の選択肢に付与された数字は,好ましい回答ほどその値が大きくなるよう設定されているため(設問 1 を除く)，この数値化によって回答の平均値，中央値，最頻値の算出を行った . その結果は以下の通りである .（前回アンケートの結果については巻末「付録 4」を参照）

項目 ＼ 設問	1 属性	2 出席	3 予習	4 復習	5 宿題	6 理解	7 難易度	8 教員準備	9 プレゼン	10 教材	11 板書機材	12 評価方法	13 シラバス	14 教員評価	15 対 試験	16 キャリア
5	145	139	4	6	23	26	59	83	70	76	59	58	40	74	51	69
4	8	13	7	7	16	84	53	49	47	47	36	59	36	53	46	45
3	6	3	11	16	15	32	28	21	23	22	42	25	53	17	32	23
2	5	3	21	27	36	14	14	4	9	7	16	14	19	11	17	12
1	1	5	46	62	28	9	11	8	16	12	12	8	17	10	12	10
0	0	1	74	44	47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	165	164	163	162	165	165	165	165	165	164	165	164	165	165	158	159
平均値	4.76	4.68	1.04	1.37	1.96	3.63	3.82	4.18	3.88	4.02	3.69	3.88	3.38	4.03	3.68	3.95
中央値	5.00	5.00	1.00	1.00	2.00	4.00	4.00	5.00	4.00	4.00	4.00	4.00	3.00	4.00	4.00	4.00
最頻値	5	5	0	1	0	4	5	5	5	5	5	4	3	5	5	5

表 2：アンケートの基本統計量

全体的な分析

- 前回の回答数に比べ今回の回答数は若干少ないが，大きな差がないと考えられるので，以下では，これらの結果を比較する形で分析を行う .
- 設問 9，11，14 から，教員に対する評価が絶対的に下がったとは言えないが，いずれの設問においても一番高い評価項目への回答数が減少していることを考えれば，私たち教員もこの点を意識するべきであると考える .

質問項目間の相関関係をみるために相関係数の表を作成した . これは以下の通りである .（前回アンケートの結果については巻末「付録 4」を参照）

設問	1 属性	2 出席	3 予習	4 復習	5 宿題	6 理解	7 難易度	8 教員準備	9 プレゼン	10 教材	11 板書機材	12 評価方法	13 シラバス	14 教員評価	15 対試験	16 キャリア
1 属性	1.00															
2 出席	.03	1.00														
3 予習	.01	.09	1.00													
4 復習	-.02	.18	.42	1.00												
5 宿題	-.08	.09	.31	.24	1.00											
6 理解	-.03	.36	.23	.19	.22	1.00										
7 難易度	-.03	.31	.29	.29	.25	.50	1.00									
8 教員準備	-.22	.18	.00	.13	.19	.49	.57	1.00								
9 プレゼン	-.18	.32	.19	.16	.17	.53	.64	.61	1.00							
10 教材	-.14	.28	.14	.19	.17	.50	.72	.62	.66	1.00						
11 板書・機材	-.11	.19	.22	.14	.24	.42	.64	.53	.74	.62	1.00					
12 評価方法	-.19	.18	.18	.17	.31	.46	.52	.62	.50	.56	.53	1.00				
13 シラバス	-.05	.26	.18	.20	.13	.38	.53	.40	.48	.59	.46	.40	1.00			
14 教員評価	-.17	.42	.19	.25	.26	.53	.75	.66	.79	.73	.72	.66	.54	1.00		
15 対試験	-.01	.33	.26	.41	.12	.29	.51	.29	.40	.52	.35	.29	.36	.51	1.00	
16 キャリア	-.04	.38	.26	.28	.23	.42	.70	.46	.65	.73	.56	.49	.51	.73	.61	1.00

表 3：質問項目間の相関係数

全体的な分析

- 「出席」「予習」「復習」「宿題」と各項目間の値が前期に比べ全体的に増加している . 値そのものは決して大きいものではないため，正の相関があるとは言い切れないが，前回と今回では状況が異なるものと考えられる .
- 上記分析は，講義への参加意識の高い学生ほど各項目について高い評価を与えているという傾向を示している . これは，講義へ深くコミットしている学生ほど教員や講義の内容を適切に評価していることを意味している .
- 「出席」と「予習」「復習」「宿題」間の各値が前期同様に小さいことから, 出席する努力は惜しまないが, 講義に関する自己学習を軽視しがちな学生が見受けられる .
- 前期に比べて「出席」と「宿題」との値が 0.09 と大幅に減少したのは注目に値する . 考えられる 1 つの理由としては，後期には事例研究が多く開講され（科目の性格上，宿題が少ない），その履修者からのアンケート回収が全体の約 1/8 を占めている点をあげることができる .
- 「理解」「難易度」と「出席」「予習」「復習」「宿題」間の値は前期に比べ増加している . これは，講義に取り組む姿勢が理解力を高めることに繋がると，受講生が認識し始めたことを示唆しているのかもしれない .
- 「出席」と「教員準備」間の値は 0.18 と低く，出席率の高い学生が担当教員の準備状況を必ずしも高く評価しておらず，その点においてやや不満をもった状態で講義に臨む学生が存在することを示している .
- 「出席」と「教員評価」間の値から，出席率の高い学生は担当教員を，総合的に見て評価している傾向を見ることができる .

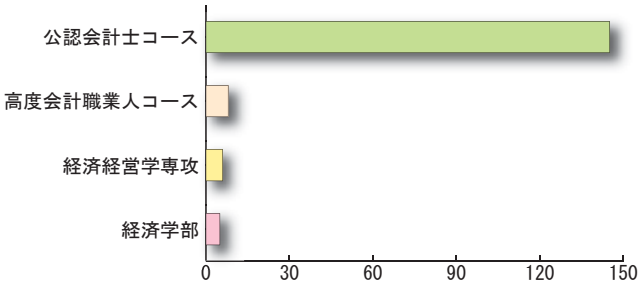
4.3. 質問項目ごとの集計結果と所見

回答の回収率が約 53% で，その絶対数も十分なものとは言えないため詳細な分析を行うことは難しいが，以下では，それぞれの質問項目について集計結果を示し，所見と今後の対応について述べることにする . なお，アンケート全体の集計結果については，巻末「付録 5」を参照されたい .

質問項目 1：該当するものを選んでください（受講者属性）

集計結果

選択項目	回答数	今回比率	前回比率
公認会計士コース	145	88.41%	69.54%
高度会計職業人コース	8	4.88%	9.20%
経済経営学専攻	6	3.66%	14.94%
経済学部	5	3.05%	6.32%
合計	164	100.00%	100.00%



分析と所見

会計大学院では，会計学に関する基本的な科目を学部学生が履修できるようにしている . 後期に開講された科目の中にも学部学生が受講できる科目は存在したが，前期の科目にくらべて幾分アドバンストな内容の科目だったことから，学部生と経済経営学専攻の受講者比率が減少していることが分かる . 前回と同様，回収されたアンケートの 70% 以上が会計大学院の学生の回答であることが分かる .

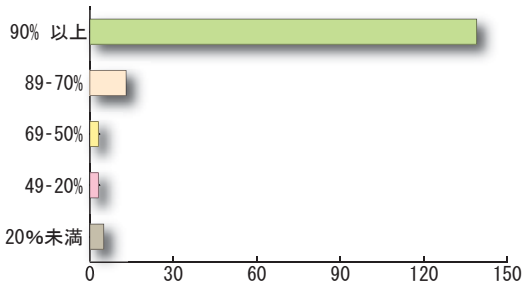
今後の対応

本会計大学院で行われている教育の主たる対象者は，会計大学院の学生である . このため，この項目に対して対応をする必要はないと考える .

質問項目 2：この講義にどのくらい出席しましたか .

集計結果

選択項目	回答数	今回比率	前回比率
90% 以上	139	85.28%	84.66%
89-70%	13	7.98%	9.66%
69-50%	3	1.84%	3.41%
49-20%	3	1.84%	0.57%
20%未満	5	3.07%	1.70%
合計	163	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問は前回も行っている . 前回と同様に出席率は高く，ほとんどの学生が 70% 以上出席していることが分かる .

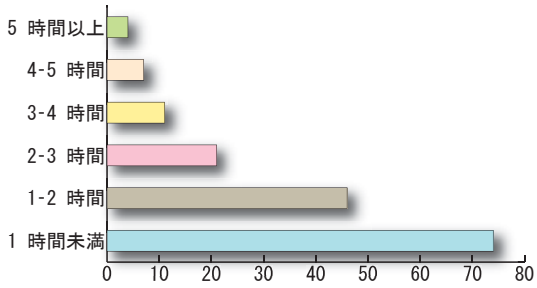
今後の対応

前回の結果と同様に，多くの学生は会計大学院の講義に出席していることが分かる . 今後ともこの出席率が維持されていくような講義を私たち教員が提供し続けてきたいと考える .

質問項目 3：この講義の予習にどのくらいの時間をかけましたか .

集計結果

選択項目	回答数	今回比率	前回比率
5 時間以上	4	2.45%	2.86%
4-5 時間	7	4.29%	2.29%
3-4 時間	11	6.75%	7.43%
2-3 時間	21	12.88%	9.71%
1-2 時間	46	28.22%	25.14%
1 時間未満	74	45.40%	52.57%
合計	163	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問は前回も行っている . 前回に比べ「1 時間未満」が 8 ポイント減少し,「1-2 時間」と「2-3 時間」合わせて 6 ポイント増加していることが分かる .

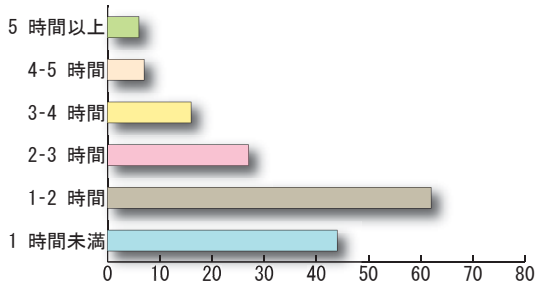
今後の対応

この結果は，全体的に見て，予習をしてから講義に臨む学生が増えていることを意味しており，望ましい方向に向かっていると考えられる . 前回報告におけるコメントと同様に，教員は講義の中で予習の重要さを繰り返し説明する必要がある . また，予習が自然な形で行えるように課題を工夫するというのも 1 つの手段であると考える .

質問項目 4：この講義の復習にどのくらいの時間をかけましたか（宿題にかけた時間を除く時間を記入してください）.

集計結果

選択項目	回答数	今回比率	前回比率
5 時間以上	6	3.70%	7.43%
4-5 時間	7	4.32%	4.00%
3-4 時間	16	9.88%	8.00%
2-3 時間	27	16.67%	23.43%
1-2 時間	62	38.27%	37.14%
1 時間未満	44	27.16%	20.00%
合計	162	100.00%	100.00%



分析と所見

前回のアンケートの質問では，講義の復習時間と宿題にかける時間の区別がうまくできなかったため，今回は宿題にかかる時間を除いた講義の復習時間を尋ねた . 前回と比較して全体的に復習時間にかける時間が減少しているという結果を得た .

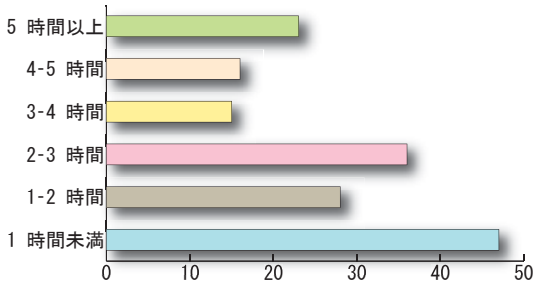
今後の対応

今回のアンケートの結果は，約 65% の学生が 2 時間未満の復習しかしていないことを示している . 後述する質問項目 5 の結果は宿題にかけた時間も減少していることを示しており，学生が十分に復習の時間をとっていないことが懸念される . 後期には，事例研究科目が多く開講されているという点も 1 つの理由と考えられるが，講義の中で復習の重要性を説明する必要があると考えられる .

質問項目 5：この講義の宿題にどのくらいの時間をかけましたか .

集計結果

選択項目	回答数	今回比率	前回比率
5 時間以上	23	13.94%	27.17%
4-5 時間	16	9.70%	12.14%
3-4 時間	15	9.09%	13.87%
2-3 時間	36	21.82%	21.39%
1-2 時間	28	16.97%	10.98%
1 時間未満	47	28.48%	14.45%
合計	165	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問は前回も行っている . 前回と比べて「2 時間以上」の割合が減少し，「1 時間未満」が 7 ポイント増加している . これは，今期，事例研究科目が多く開講されているためとも考えることができる .

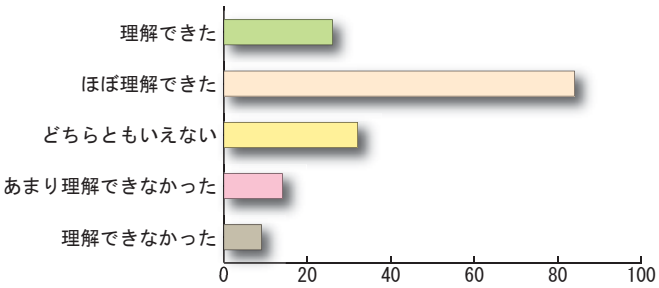
今後の対応

質問項目 4 におけるコメントと重複するが，講義の復習にかける時間が減少していることが懸念される . 事例研究科目についても，学生の自習を促すような宿題を工夫する必要があると考えられる . 具体的な方策については今後考えていきたい .

質問項目 6：この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか .

集計結果

選択項目	回答数	今回比率	前回比率
理解できた	26	15.76%	16.95%
ほぼ理解できた	84	50.91%	50.85%
どちらともいえない	32	19.39%	17.51%
あまり理解できなかった	14	8.48%	7.34%
理解できなかった	9	5.45%	7.34%
合計	165	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問は前回も行っている . 前回と同様に, 約 70% の学生が「理解できた」, または,「ほぼ理解できた」と回答している .

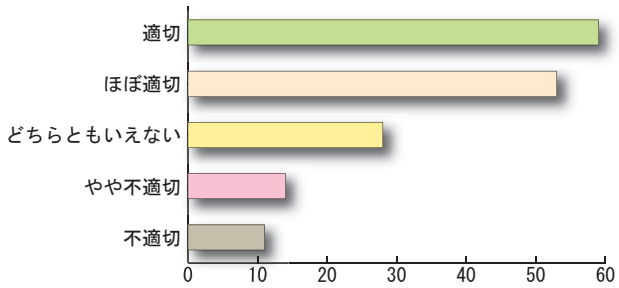
今後の対応

次回は 7 割以上の学生が講義の内容を理解できるよう，講義の内容を工夫していきたい .

質問項目 7:この講義のレベルは会計大学院の講義として適切だと思いますか .（この講義が，基礎，展開，実践・応用科目のどれに属しているかを考慮して回答してください）

集計結果

選択項目	回答数	今回比率	前回比率
適切	59	35.76%	40.11%
ほぼ適切	53	32.12%	31.07%
どちらともいえない	28	16.97%	15.25%
やや不適切	14	8.48%	6.78%
不適切	11	6.67%	6.78%
合計	165	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問は前回も行っている . 前回と同様に, 約 70% の学生が「適切」または「ほぼ適切」と回答している .

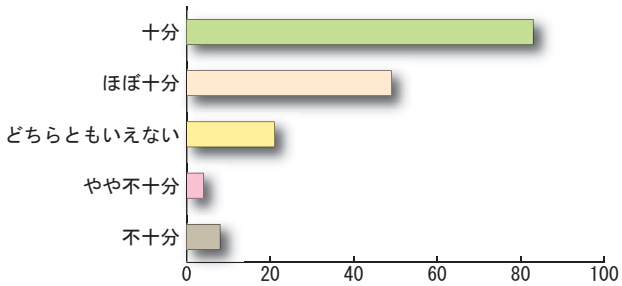
今後の対応

この結果は，今セメスターに開講された科目の多くが，「基礎科目」・「実践・応用科目」であった点を考慮すれば，これらの科目の多くが会計大学院の講義として適切なレベルであったと評価されていることを意味している . ただし，次のセメスターでは，「基礎科目」・「展開科目」・「実践・応用科目」が全て開講されるので，学生がこれらの科目のレベルをどのように評価するか注目していきたい .

質問項目 8：教員のこの講義に対する準備は十分でしたか？

集計結果

選択項目	回答数	今回比率	前回比率
十分	83	50.30%	53.67%
ほぼ十分	49	29.70%	23.16%
どちらともいえない	21	12.73%	11.30%
やや不十分	4	2.42%	6.21%
不十分	8	4.85%	5.65%
合計	165	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問は前回も行っている . 前回と比べると「十分」が減少しているものの，「ほぼ十分」が 7 ポイント増加し,「やや不十分」「不十分」合わせて 5 ポイント減少しており, 多少の改善を認めることができる .

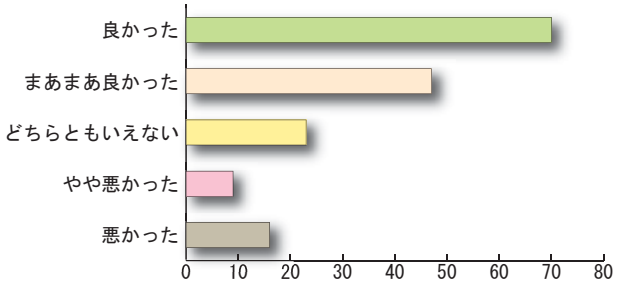
今後の対応

この結果は約 80% の学生が，教員の講義に対する準備について満足していることを示している . 私たち教員は，今後ともこのような評価が得られるよう努力していきたい .

質問項目 9：教員の説明や声など，授業でのプレゼンテーションは良かったですか .

集計結果

選択項目	回答数	今回比率	前回比率
良かった	70	42.42%	55.68%
まあまあ良かった	47	28.48%	21.59%
どちらともいえない	23	13.94%	9.66%
やや悪かった	9	5.45%	7.39%
悪かった	16	9.70%	5.68%
合計	165	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問は前回も行っている . 前回と比べ「まあまあ良かった」が 6 ポイント増加しているが,「良かった」が 14 ポイント減少している . また,「悪かった」も増加していることを考慮すれば，全体的に教員のプレゼンテーションが悪くなったものと言わざるを得ない .

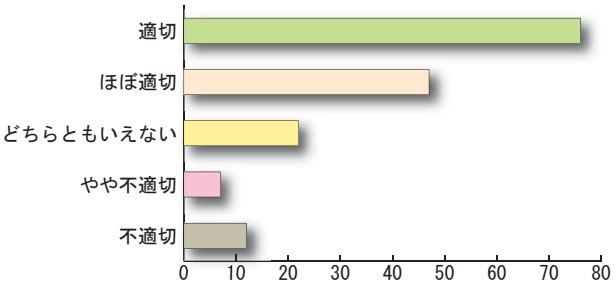
今後の対応

この結果は，約 70% の学生が教員のプレゼンテーションに満足しているものの，前回より満足している学生の割合が下がっていることを示している . 私たちは，次回の報告までに，このような結果が生じた原因を見つけ出す必要がある .

質問項目 10：テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか .

集計結果

選択項目	回答数	今回比率	前回比率
適切	76	46.34%	46.02%
ほぼ適切	47	28.66%	25.00%
どちらともいえない	22	13.41%	14.77%
やや不適切	7	4.27%	6.25%
不適切	12	7.32%	7.95%
合計	164	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問は前回も行っている . 前回と比較すれば,「適切」・「ほぼ適切」の割合が少し増加し，わずかながらの改善が見られるが，全体としてみれば，前回と同様の結果と考えることができる .

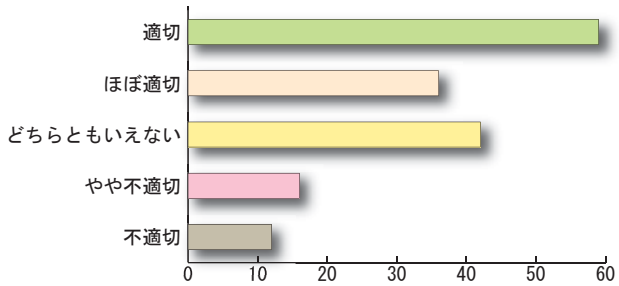
今後の対応

この結果は，約 75% の学生が，講義で用いられたテキスト・参考書・プリントについて満足していることを示している . 今後とも，私たち教員は，適切と思われるテキストや参考書を選び，有効な講義資料を作成していきたいと考えている .

質問項目 11：板書，プロジェクター等の使用は適切でしたか .

集計結果

選択項目	回答数	今回比率	前回比率
適切	59	35.76%	37.85%
ほぼ適切	36	21.82%	29.94%
どちらともいえない	42	25.45%	18.08%
やや不適切	16	9.70%	10.17%
不適切	12	7.27%	3.95%
合計	165	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問は前回も行っている . 前回と比べると「適切」と「ほぼ適切」合わせて 10 ポイント減少している . 質問項目 9 の結果と合わせて考えれば，今期開講された科目において，私たちの教え方に若干ながら問題があったのかもしれない . また，学生も会計大学院の講義に慣れ，私たち教員に求めるレベルが高くなっているとの解釈も可能である .

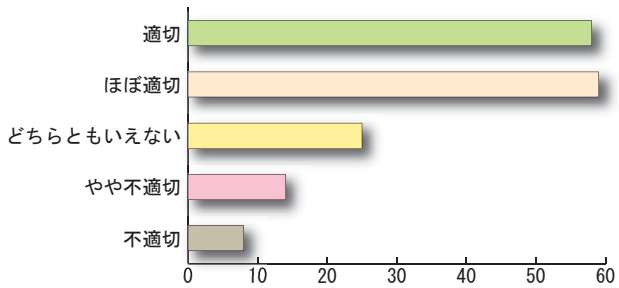
今後の対応

この質問項目は，前回の結果と同様に，今回の結果においても質問項目 9 との関連が強いことが分かった . また，講義によってはプロジェクターを全く使用しないものもあるので，次回のアンケートからは，質問項目 9 の中に含めることとしたい .

質問項目 12：この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか .

集計結果

選択項目	回答数	今回比率	前回比率
適切	58	35.37%	40.11%
ほぼ適切	59	35.98%	26.55%
どちらともいえない	25	15.24%	19.77%
やや不適切	14	8.54%	6.21%
不適切	8	4.88%	7.34%
合計	164	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問は前回も行っている . 前期と比べ「適切」が 5 ポイント減少しているが,「ほぼ適切」が増加し，全体として 5 ポイントほど増加している .「不適切」が減少していることを考慮すれば，全体的に見て適切な成績評価が行われているものと考えることができる .

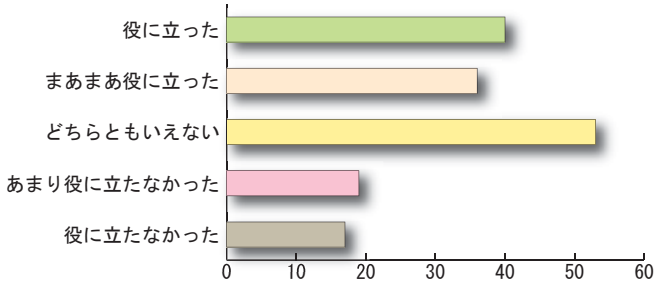
今後の対応

この結果は，70% 以上の学生が成績評価を適切なものと見なしていることを示している . 本会計大学院では，成績の評価基準をシラバスに明記し，その基準に基づき成績評価を行っているが，私たち教員は，この結果に満足せず，学生の能力を適切に測定できる評価基準を見いだしていく努力をすべきであると考える .

質問項目 13：この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか .

集計結果

選択項目	回答数	今回比率	前回比率
役に立った	40	24.24%	19.32%
まあまあ役に立った	36	21.82%	27.27%
どちらともいえない	53	32.12%	29.55%
あまり役に立たなかった	19	11.52%	14.20%
役に立たなかった	17	10.30%	9.66%
合計	165	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問は前回も行っている . 前回と比べると,「まあまあ役に立った」が 5 ポイント減少しているが,「役に立った」が 5 ポイント増加している . シラバスは年度の初めに作成され，公式には今期において修正を行っていない（科目によって個別的な修正を行ったものは存在する）. この点を考慮すると指摘したポイントの変化は偶然の結果とも解釈できる . 問題は，シラバスが講義を理解する上で役立つと考えている学生が半分に満たないという点である .

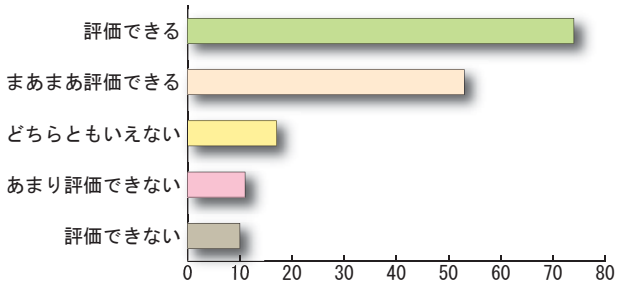
今後の対応

今年度のシラバスは，実際に会計大学院の講義を行う以前に作成されたものであり，学生のレベル・講義の進度等が全く分からないという条件の下で作成された . 次年度のシラバスでは，今年の経験に基づき大幅な変更を行っている . この成果については，次期以降に行われるアンケートの結果を待ち，検討していきたい .

質問項目 14：総合的に見て，この講義を担当した教員をどう評価しますか .

集計結果

選択項目	回答数	今回比率	前回比率
評価できる	74	44.85%	53.67%
まあまあ評価できる	53	32.12%	24.29%
どちらともいえない	17	10.30%	10.17%
あまり評価できない	11	6.67%	5.08%
評価できない	10	6.06%	6.78%
合計	165	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問は前回も行っている . 前回と比べると，「評価できる」が減少している点は気にかかるが，全体的に見れば，前回と同様 75% 以上の学生が教員に対しポジティブな評価を与えている .

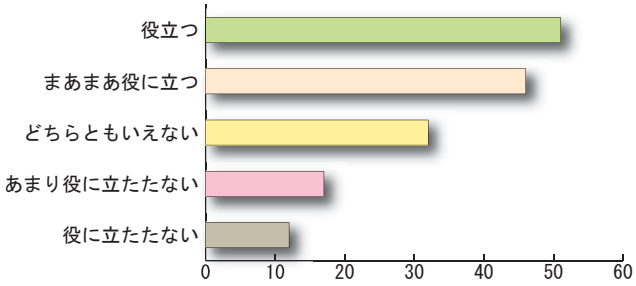
今後の対応

この結果は多くの学生が，会計大学院の教員を評価していることを示している . 私たち教員は，今後ともこのような評価が得られるよう努力していきたい .

質問項目 15：この講義は，公認会計士試験を受験する上で役に立つと思いますか .

集計結果

選択項目	回答数	今回比率	前回比率
役立つ	51	32.28%	30.29%
まあまあ役に立つ	46	29.11%	24.57%
どちらともいえない	32	20.25%	20.00%
あまり役に立たたない	17	10.76%	8.57%
役に立たたない	12	7.59%	16.57%
合計	158	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問は前回も行っている . 前回と比べ「役に立たない」が減少し,「役立つ」と「まあまあ役に立つ」が増加している . これは，前回と比べて，会計大学院の講義を試験に役立つものと考える学生がわずかではあるが増えたことを意味している .

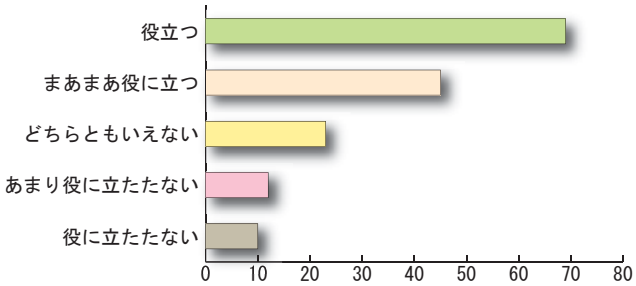
今後の対応

この結果は，40% 程度の学生が，会計大学院における講義と公認会計士の試験が直接的に結びつかないと考えていることを示している . 会計大学院の講義は，受験予備校のように受験のテクニックを教えるものではなく，職業会計人として必要とされるものの見方・考え方を教えることが目的であるという点を考慮すれば，このような評価がなされることは避けられないものと考える . 前回報告におけるコメントと同様に，平成 18 年度から実施される新制度の公認会計士試験において，社会が求めている公認会計士を適切に選択できる試験問題が出題されるものと仮定するならば，私たちは，今後，新制度試験に関する情報を収集し，この試験に対応できるような教育を行っていく必要があると考えている .

質問項目 16：この講義は，公認会計士になってからのキャリアにおいて役立つと思いますか .

集計結果

選択項目	回答数	今回比率	前回比率
役立つ	69	43.40%	42.44%
まあまあ役に立つ	45	28.30%	29.07%
どちらともいえない	23	14.47%	19.19%
あまり役に立たたない	12	7.55%	2.91%
役に立たたない	10	6.29%	6.40%
合計	159	100.00%	100.00%



分析と所見

この質問は前回も行っている . 前回と比べると,「役立つ」と「まあまあ役に立つ」の割合に大きな変化は見られない . しかし,「どちらともいえない」が 5 ポイント減少し,「役に立たない」が同ポイント増加している点に着目すれば，前回より悪くなっているとの解釈も可能である .

今後の対応

この結果は，約 70% の学生が会計大学院の講義を公認会計士となってからのキャリアにおいて役立つものとみなしていることを示している . 本会計大学院の設立趣旨に鑑みれば，これは望ましい結果といえる . 私たち，教員はこの結果に満足せず，80% 以上の学生からこのような評価が得られるよう努力していくべきであると考える .

4.4. 自己評価と今後の課題

質問項目 6（講義の理解度），質問項目 7（講義のレベル），質問項目 8（教員の準備），質問項目 10（テキスト・参考書），質問項目 12（成績評価），質問項目 14（教員の評価），質問項目 16（講義の有用性）については，前回と同様か，または，わずかではあるが改善されているものもあるので，ほぼ満足のいく結果といえる . 私たち教員は，今後ともこれらの項目についてより高い評価が得られるよう努力していきたいと考えている .

質問項目 9（教員のプレゼンテーション）と質問項目 11（板書・プロジェクターの利用）については，多少評価は下がっている感もあるが，ほぼ満足のいく結果と考えている .

今回のアンケートでも，前回と同じ問題点が明らかになっている . すなわち，以下の 3 点である .

① シラバスの改善

② 講義時間外における学生の学習時間の確保

③ 会計大学院と公認会計士試験の関係

①への対応

現在，次年度のシラバスを編集しており，次年度のシラバスは 800 ページ以上の分量になる予定である . 本会計大学院のシラバスのようにその分量が膨大となる場合，表記の形式が統一されていないと学生にとって利用しづらいものとなる . 本会計大学院では，カリキュラム委員会が中心となりシラバスの形式をチェックし，表現の統一を図っている . このような分量のシラバスを文書として配布することもまた学生にとっての利便性を失わせることになるので，シラバスを pdf 文書化し，目次から関心のある科目へとすぐ移動できるように工夫をしている .

シラバスの内容については，本報告でも述べたとおり，多くの教員が今年度の経験に基づき，講義の進度・内容などについて修正を行っている . 今回実施したシラバスの改善に対する評価については，次回のアンケート結果を待ちたいと考えている .

②への対応

今回のアンケート結果を見て，私たちが懸念することは，学生の学習時間が全体的に減少していることである . この点を明らかにするために，ラフな分析ではあるが，設問 3・4・5 の回答数を合計しその比率を，前回と今回で比較してみよう .

学習時間数	前回	今回	前回比率	今回比率
5 時間以上 (5.5)	65	33	12.43%	6.73%
4 ～ 5 時間 (4.5)	32	30	6.12%	6.12%
3 ～ 4 時間 (3.5)	51	42	9.75%	8.57%
2 ～ 3 時間 (2.5)	95	84	18.16%	17.14%
1 ～ 2 時間 (1.5)	128	136	24.47%	27.76%
1 時間未満 (0.5)	152	165	29.06%	33.67%
合計	523	490	100.00%	100.00%

表 4：学習時間数の比較

上の表から，前回と今回の結果を比較すると，5 時間以上学習している学生の比率が減少し，学習時間が 2 時間未満の比率が増えていることが分かる . 前回と今回の結果が異なることを示すために，学習時間数を表 4 第 1 列における (　) 内の数値と仮定すると, 前回と今回の平均学習時間は, 2.2667 時間と 1.9592 時間となる . 前回の平均学習時間と今回の平均学習時間が等しいという仮説を検定するために t 値を計算すると 3.060 となり，1% の有意水準で棄却される（p 値は 0.0011）. この結果は，後期の講義に関係する平均学習時間が，前期に比べて減少していることを意味する .

「会計大学院のカリキュラムに関するアンケート」の質問項目 7 で，受験のための学習時間について調

査しているが，ここでも学習時間の減少傾向がみられた . これは，学生が講義に関する学習時間の減少分を受験のために費やしているわけではないことを意味している .

上の分析は，大雑把なものではあるが，学生の学習時間の減少傾向を示しており，私たちは次のセメスターにおいて何らかの方策を講じなければならない . 方策の 1 つとして，予習と復習をバランスよく行えるような課題を課すというものを考えることはできるが，科目によっても工夫の仕方は異なるので，問題点を FD で提案し，各教員に対応策を検討してもらうことを考えている .

③に対する対応

前回の調査と同様に，今回の調査でも，学生の多くは，会計大学院の講義を会計士になってからのキャリアには役立つものの，公認会計士試験の準備としては不十分であると評価している . 本会計大学院では，高度な分析能力を持つ職業会計人を養成するための教育を行っており，単に，公認会計士試験に合格するためだけの教育は行うことを目的とはしていない . 今回の調査でも，学生は私たちが行っている教育の目的をある程度理解しているものと解釈できるが，今後，折に触れて会計大学院で行われている教育の目的とその重要性を学生に対して説明していくことが必要と思われる .

前回の報告書でも述べたように, この問題は簡単にその解決を見いだせるものではないと考えられる . 私たちは，この問題について引き続き議論を行い，解決策を模索していきたい .

最後に，アンケートの回収率に触れてこの報告を終えることにする .「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」は会計大学院の学生 9 名から回収された（回収率 22.5%）.「会計大学院の授業に関するアンケート」については, 165 の回答を回収した（回収率 53%）. この回収率は高いとは言い難い . 次回のアンケートでは，回収率を高めるような方策を考えていきたい . 同時に，在学生については次回の調査にできるだけ協力して頂けることを希望する .

付録１：会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート（2005 年度後期）

このアンケートは，学生諸君の意見を会計大学院のカリキュラムの改善に役立てることを目的に行うものです . 結果は報告書としてとりまとめます .

1. 該当するものを選んでください .
(5) 公認会計士コース　(4) 高度会計職業人コース　(3) 経済経営学専攻　(2) 経済学部

2. 基礎，展開，実践・応用の科目配置は適切だと思いますか .
(5) 適切である　(4) ほぼ適切である　(3) どちらともいえない
(2) やや不適切である　(1) 不適切である

3. セメスター間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか .
(5) 適切である　(4) ほぼ適切である　(3) どちらともいえない
(2) やや不適切である　(1) 不適切である

4. オフィスアワーを利用しましたか . 教員に履修相談・質問等を行った回数を書いてください .
(5)5 回以上　(4)4 回または 3 回　(3)　2 回　(2)1 回　(1) 利用しなかった

5. セメスター開始時に行われる履修指導は，学習計画を立てる上で役に立ちましたか .
(5) 役に立った　(4) まあまあ役に立った　(3) どちらともいえない
(2) あまり役に立たなかった　(1) 役に立たなかった

6. 本大学院では GPA による成績評価を用いていますが，GPA によって学生の能力は適切に評価できると思いますか .
(5) 適切である　(4) ほぼ適切である　(3) どちらともいえない
(2) やや不適切である　(1) 不適切である

7. 講義の予習・復習・宿題にかける時間以外に，公認会計士試験のための自主学習には 1 日平均何時間くらいかけていますか .
(5)5 時間以上，　(4)4-5 時間　(3)3-4 時間　(2)1-3 時間　(1) していない

8. 会計大学院では，学生への連絡システムとして e-mail とＨＰによる掲示を用いていますが，このシステムは役に立ちましたか .
(5) 役に立った　(4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない
(2) あまり役に立たなかった　(1) 役に立たなかった

9.2006 年度の公認会計士試験を受験しようと考えていますか .
(5) 考えている　(4) まだ決めていない　(3) 考えていない

10. 今後，新たに開設すべきだと思う科目があれば３つ以内で記入してください .
→自由記入欄に記入して下さい .

自由記入欄（会計大学院に対する感想，会計大学院に要望することなどを自由に記入してください . また上のアンケートの各項目について，より詳しい意見を述べたい場合にも，ここに記入してください .）

－以上です . 協力に感謝します .

付録２：会計大学院の授業に関するアンケート（2005 年度後期）

　このアンケートは，会計大学院の授業の改善に学生諸君の意見を生かそうとするものです . 結果は報告書としてとりまとめます .

授業科目名（マークシート用紙に記入）
※注意:この科目が，基礎科目，展開科目，実践･応用科目のどれに該当するか，シラバス等で確認して下さい .

回答者属性
1. 該当するものを選んでください .
(5) 公認会計士コース　(4) 高度会計職業人コース　(3) 経済経営学専攻　(2) 経済学部

科目内容について
2. この講義にどのくらい出席しましたか .
(5)90% 以上　(4)89-70%　(3)69-50%　(2)49-20%　(1)20% 未満

3. この講義の予習にどのくらいの時間をかけましたか .
(5)5 時間以上　(4)4-5 時間　(3)3-4 時間　(2)2-3 時間　(1)2-1 時間　(0)1 時間未満

4. この講義の復習にどのくらいの時間をかけましたか .（宿題にかけた時間を除く時間を記入してください）
(5)5 時間以上　(4)4-5 時間　(3)3-4 時間　(2)2-3 時間　(1)2-1 時間　(0)1 時間未満

5. この講義の宿題にどのくらいの時間をかけましたか .
(5)5 時間以上　(4)4-5 時間　(3)3-4 時間　(2)2-3 時間　(1)2-1 時間　(0)1 時間未満

6. この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか .
(5) 理解できた　(4) ほぼ理解できた　(3) どちらともいえない
(2) あまり理解できなかった　(1) 理解できなかった

7. この講義のレベルは会計大学院の講義として適切だと思いますか .（この講義が，基礎，展開，実践・応用科目のどれに属しているかを考慮して回答してください）
(5) 適切である　(4) ほぼ適切である　(3) どちらともいえない
(2) やや不適切である　(1) 不適切である

8. 教員のこの講義に対する準備は十分でしたか？
(5) 十分だった　(4) ほぼ十分だった　(3) どちらともいえない
(2) やや不十分だった　(1) 不十分だった

9. 教員の説明や声など，授業でのプレゼンテーションは良かったですか .
(5) 良かった　(4) まあまあ良かった　(3) どちらともいえない
(2) やや悪かった　(1) 悪かった

10. テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか .
(5) 適切である　(4) ほぼ適切である　(3) どちらともいえない
(2) やや不適切である　(1) 不適切である

11. 板書，プロジェクター等の使用は適切でしたか .
(5) 適切である　(4) ほぼ適切である　(3) どちらともいえない
(2) やや不適切である　(1) 不適切である

12. この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか .

(5) 適切である　(4) ほぼ適切である　(3) どちらともいえない
(2) やや不適切である　(1) 不適切である

13. この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか .
(5) 役に立った　(4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない
(2) あまり役に立たなかった　(1) 役に立たなかった

14. 総合的に見て，この講義を担当した教員をどう評価しますか .
(5) 評価できる　(4) まあまあ評価できる　(3) どちらともえいない
(2) あまり評価できない (1) 評価できない

15. この講義は，公認会計士試験を受験する上で役に立つと思いますか .
(5) 役立つ　(4) まあまあ役に立つ　(3) どちらともいえない
(2) あまり役に立たたない　(1) 役に立たたない

16. この講義は，公認会計士になってからのキャリアにおいて役立つと思いますか .
(5) 役立つ　(4) まあまあ役に立つ　(3) どちらともいえない
(2) あまり役に立たたない　(1) 役に立たたない

17.（自由質問）教員がアンケートの際に行った質問に回答してください .
(5)　(4)　(3)　(2)　(1)

その他質問（自由記入欄に番号を記入して下さい .(6) については具体的に記入して下さい）
18. 既に合格した資格試験等について教えてください .（複数解答可）
(5) 税理士会計科目　(4) 公認会計士短答式　(3) 日商簿記 1 級
(2) 日商簿記 2 級　(1) 日商簿記 3 級　(6) その他

自由記入欄（この授業の感想，担当教員に要望することなどを自由に記入してください . また上のアンケートの各項目について，より詳しい意見を述べたい場合にも，ここに記入してください .）

ー以上です . 協力に感謝します .

付録３:「会計大学院カリキュラム等に関するアンケート」の前回（2005 年度前期）報告における「自己評価と今後の課題」

① 本会計大学院で行っている，科目のレベルに応じた分類（基礎，応用，実践・展開）は概ね適当であると考えられる . ただし，今後，応用と実践・展開科目が開講されていった場合，この点に関する学生の評価がどのようになっていくかを注意していく必要がある .

② 質問項目３より，科目をどのセメスターで開講するかに関して，多くの学生は不満を持っていたことが伺える . セメスター間のバランスについては，今後年次進行に従い情報を収集し，今年度より検討を始め，平成 19 年度のカリキュラムに反映させていきたい .

③ 本会計大学院では担任制を用いているが，アンケートの結果を見る限り，担当教員と学生との間のコミュニケーションが頻繁に行われたとは言いがたい . 学生とのコミュニケーションは，学生の学習状況や要望を把握する上で重要であり，今後，履修指導のあり方も考慮に入れながら，何らかの方法を模索していきたい .

④ 本大学院では，常勤の専任教員全てが担任となり，セメスター毎に履修指導を行っている . ほとんどの教員がこのような形で履修指導を行うのは初めての経験であり，履修指導の方法については，現在，試行錯誤しながらベストな形を模索している . セメスター毎に行われる履修指導では，各教員が行った履修指導の内容をレポートしてもらい，その結果を情報として共有することにより，本会計大学院における理想的な履修指導の形を求めていきたいと考えている .

付録 4：「会計大学院の授業に関するアンケート」の前回の結果

度数分布表

項目 ＼ 設問	1 属性	2 出席	3 予習	4 復習	5 宿題	6 理解	7 難易度	8 教員準備	9 プレゼン	10 教材	11 板書機材	12 評価方法	13 シラバス	14 教員評価	15 対試験	16 キャリア
5	121	149	5	13	47	30	71	95	98	81	67	71	34	95	53	73
4	16	17	4	7	21	90	55	41	38	44	53	47	48	43	43	50
3	26	6	13	14	24	31	27	20	17	26	32	35	52	18	35	33
2	11	1	17	41	37	13	12	11	13	11	18	11	25	9	15	5
1	1	3	44	65	19	13	12	10	10	14	7	13	17	12	29	11
0	0	1	92	35	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	175	177	175	175	173	177	177	177	176	176	177	177	176	177	175	172
平均値	4.40	4.72	0.90	1.61	2.80	3.63	3.91	4.13	4.14	3.95	3.88	3.86	3.32	4.13	3.43	3.98
中央値	5.00	5.00	0.00	1.00	3.00	4.00	4.00	5.00	5.00	4.00	4.00	4.00	3.00	5.00	4.00	4.00
最頻値	5	5	0	1	5	4	5	5	5	5	5	5	3	5	5	5

相関係数表

設問	1 属性	2 出席	3 予習	4 復習	5 宿題	6 理解	7 難易度	8 教員準備	9 プレゼン	10 教材	11 板書機材	12 評価方法	13 シラバス	14 教員評価	15 対試験	16 キャリア
1 属性	1.00															
2 出席	.03	1.00														
3 予習	-.05	.11	1.00													
4 復習	-.17	.02	.40	1.00												
5 宿題	.02	.27	.16	.23	1.00											
6 理解	.03	.13	.03	.00	-.05	1.00										
7 難易度	-.07	-.01	.00	.07	-.14	.62	1.00									
8 教員準備	-.05	.01	-.04	.01	-.20	.63	.75	1.00								
9 プレゼン	-.21	.02	-.05	.03	-.07	.51	.67	.69	1.00							
10 教材	-.15	.00	.07	.05	-.18	.62	.68	.64	.64	1.00						
11 板書・機材	-.19	.00	.01	.07	-.07	.49	.71	.68	.75	.64	1.00					
12 評価方法	-.11	-.07	.14	-.03	-.17	.47	.53	.52	.44	.59	.49	1.00				
13 シラバス	-.17	.07	.14	.10	-.05	.47	.57	.43	.49	.56	.46	.47	1.00			
14 教員評価	-.19	.00	-.02	-.04	-.16	.56	.80	.74	.74	.72	.74	.53	.53	1.00		
15 対試験	.02	.10	.06	.19	-.05	.31	.41	.33	.32	.34	.40	.23	.28	.38	1.00	
16 キャリア	.01	-.01	.05	.00	-.11	.53	.62	.56	.58	.61	.60	.47	.50	.67	.53	1.00

付録 5：アンケート集計結果

	選択項目	人数	割合
設問 1			
回答者属性	公認会計士コース	145	88%
	高度会計職業人コース	8	5%
	経済経営学専攻	6	4%
	経済学部	5	3%
	合計	164	100%
設問 2			
この講義にどのくらい出席しましたか．	90% 以上	139	85%
	89-70%	13	8%
	69-50%	3	2%
	49-20%	3	2%
	20%未満	5	3%
	合計	163	100%
設問 3			
この講義の予習にどのくらいの時間をかけましたか．	5 時間以上	4	2%
	4-5 時間	7	4%
	3-4 時間	11	7%
	2-3 時間	21	13%
	1-2 時間	46	28%
	1 時間未満	74	45%
	合計	163	100%
設問 4			
この講義の復習にどのくらいの時間をかけましたか．	5 時間以上	6	4%
	4-5 時間	7	4%
	3-4 時間	16	10%
	2-3 時間	27	17%
	1-2 時間	62	38%
	1 時間未満	44	27%
	合計	162	100%
設問 5			
この講義の宿題にどのくらいの時間をかけましたか．	5 時間以上	23	14%
	4-5 時間	16	10%
	3-4 時間	15	9%
	2-3 時間	36	22%
	1-2 時間	28	17%
	1 時間未満	47	28%
	合計	165	100%
設問 6			
この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか．	理解できた	26	16%
	ほぼ理解できた	84	51%
	どちらともいえない	32	19%
	あまり理解できなかった	14	8%
	理解できなかった	9	5%
	合計	165	100%
設問 7			
この講義のレベルは会計大学院の講義として適切だと思いますか．	適切	59	36%
	ほぼ適切	53	32%
	どちらともいえない	28	17%
	やや不適切	14	8%
	不適切	11	7%
	合計	165	100%
設問 8			
教員のこの講義に対する準備は十分でしたか．	十分	83	50%
	ほぼ十分	49	30%
	どちらともいえない	21	13%
	やや不十分	4	2%
	不十分	8	5%
	合計	165	100%

	選択項目	人数	割合
設問 9			
教員の説明や声など，授業でのプレゼンテーションは良かったですか．	良かった	70	42%
	まあまあ良かった	47	28%
	どちらともいえない	23	14%
	やや悪かった	9	5%
	悪かった	16	10%
	合計	165	100%
設問 10			
テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか．	適切	76	46%
	ほぼ適切	47	29%
	どちらともいえない	22	13%
	やや不適切	7	4%
	不適切	12	7%
	合計	164	100%
設問 11			
板書，プロジェクター等の使用は適切でしたか．	適切	59	36%
	ほぼ適切	36	22%
	どちらともいえない	42	25%
	やや不適切	16	10%
	不適切	12	7%
	合計	165	100%
設問 12			
この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか．	適切	58	35%
	ほぼ適切	59	36%
	どちらともいえない	25	15%
	やや不適切	14	9%
	不適切	8	5%
	合計	164	100%
設問 13			
この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか．	役に立った	40	24%
	まあまあ役に立った	36	22%
	どちらともいえない	53	32%
	あまり役に立たなかった	19	12%
	役に立たなかった	17	10%
	合計	165	100%
設問 14			
総合的に見て，この講義を担当した教員をどう評価しますか．	評価できる	74	45%
	まあまあ評価できる	53	32%
	どちらともいえない	17	10%
	あまり評価できない	11	7%
	評価できない	10	6%
	合計	165	100%
設問 15			
この講義は公認会計士試験を受験する上で役に立つと思いますか．	役立つ	51	32%
	まあまあ役に立つ	46	29%
	どちらともいえない	32	20%
	あまり役に立たたない	17	11%
	役に立たたない	12	8%
	合計	158	100%
設問 16			
この講義は公認会計士になってからのキャリアに役立つと思いますか．	役立つ	69	43%
	まあまあ役に立つ	45	28%
	どちらともいえない	23	14%
	あまり役に立たたない	12	8%
	役に立たたない	10	6%
	合計	159	100%

注）設問の文言は本来のものと若干異なります．

2005 年度　東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長	青木　雅明
委員	伊藤　健
委員	伊東　俊彦
委員	小沢　浩
委員	乙政　正太
委員	鴨池　治
委員	下村　英紀
委員	ダニエル・ドーラン
委員	藤本　雅彦
委員	細谷　雄三

会計大学院アンケート実施報告書　2005 年度後期
2006 年　4 月　3 日発行
編集・発行：　東北大学会計大学院ワークショップ委員会